

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194700449), 法人名 (社会福祉法人 三章会), 事業所名 (グループホーム りらく 藍・麻 (麻ユニット)), 所在地 (河西郡芽室町東芽室南2線16-12), 自己評価作成日 (平成26年12月24日), 評価結果市町村受理日 (平成27年4月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の生活リズムを大切に、出来るだけその人に合った生活を支援しています。老健施設が隣接されている為、家族、知人がデイサービスを利用されたりされた際には面会に行かれたり、来られたりされています。また、日曜日など施設が使用されないときには、系列のグループホームと一緒に家族会を催し、交流を深め、施設の夏祭りに参加して頂き、楽しんで頂きました。季節の良い日には、福祉車両を借り、ドライブ、外食などにも出かけます。系列のグループホームで意見交換、相談し、より良い支援を目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0194700449-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿い、その人らしく生活出来るように日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	隣接された施設を利用されているご家族、近所の方が来られたり、こちらから行かれたりされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にはご家族、役場の方、一般町民の方に出席して頂き、行った行事、取り組みを報告し、要望を確認し、話しやすい環境づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議、面会に来られた際などに要望などを聞いているが、「預けている」と言う意識が強いのか、意見が出る事が少ないが、意見が出た時にはサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、実地指導、認定調査委に来られた際にお話しし、アドバイスを頂いたり、相談に乗って頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や講習、施設内研修にて勉強しながら身体拘束について再確認している。また、夜間は防犯の為、施錠をしているが、日中は施錠せず、見守りで自由に生活できるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、講習に参加し、事故が発生した時には、家族、町、推進会議で報告時、虐待に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者がなく、必要としていないが、必要時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に行い、改定などの時には一人一人に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際、個々に接し、馴染める環境を作り、それとなく意見、要望を聴ける環境づくりに努め、意見があった時には、反映出来るよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度会議を行い、意見を交換し、日常の何気ない会話より意見、提案を聴き、反映出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康に影響がないように配慮し、資格取得時の講習、研修の時には優先的に配慮出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修には可能な限り積極的に出席して頂き、資料などを参考に、感想を話し合い、報告書を提出して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設、グループホームとの交流は難しいが、同法人、同グループホームとは交流会、施設行事を得て交流している。また、月に1度、会議を行い、情報を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面会に行き、お話をしたりし、顔を覚えてもらえるようにしている。入居後は担当を決め、個々にお話をする機会を設け、出来る限り意見、要望を聞き、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談課、ケアマネを通じ、経緯、現在の状況を聞き、なるべく顔を合わせる機会を作りお話が出来る、聞ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人とお話をし、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を検討し、貸し出し可能なもの、補助が利用できるものはなるべく利用するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生い立ちや過ごされていた環境を把握し、洗濯物畳みなどを一緒に行いながら、暮らしを共にし、支え合えるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問しやすい環境づくりを心掛け、面会時には日頃の様子を伝え、本人と一緒に支えて行けるような関係づくりに努めている。受診なども一緒に行くなどし、情報を共有できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方、知り合い、近所に住んでいた方など気軽に訪問しやすい環境づくりに努めている。他ホーム、施設のデイサービスを利用されているご家族にも面会に行かれたりされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しない様に声掛けや、職員が間に入るなどし、入居者同士が関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、病院などへ訪問し、関係を直ぐに断ち切らない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調、環境に配慮し、要望、意見の把握に努め、制御しない生活に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後になるべく、家族、介助支援専門員や他施設での情報も参考にし、これまでの生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事を見極め、日常生活に活かし、変化があった時には、連絡ノートを用い、職員全員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に担当者が付き、その人に合わせた介護計画書を作成、見直しをし、家族には要望、希望などを聞いている。また、月に1度の会議では、意見、アイデアを話し合い、反映出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常の様子を記載し、状況を毎日記録している。職員間の情報とし、連絡ノートを用い、情報の共有に努め、会議では介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、ホームでの行事で外出する時には施設の車を借り行かれている。冬期間は足元が悪く、中々外出する事は出来ないが、施設での家族会、理美容の際には行かれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場などに相談し、地域資源を確認し、説明などを行って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の往診があり、気になる事を相談している。また、精神科などの専門医に受診される時には主治医に手紙を書いて頂き、必要であれば職員が同行している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤に看護師がおり、日常の健康管理を支援してくださったり、相談できる体制を整えている。緊急時には主治医の往診があり、状況を確認しに来てくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常生活、注意する点を記載し、入院時に渡せるように準備している。入院中も、家族と連絡を取り合い状況を確認したり、ソーシャルワーカーからも状態の報告などがある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より重度化した場合や、終末期のあり方についてご家族にお話し、希望や要望を伺い、ホームでできることを説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に確認できるようマニュアルを提示し、会議の時にも話し合いを設け、研修がある時には全員参加を心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導、避難訓練を行い併設している老健施設より協力を得るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い空間の中での会話を他者が気にされる事もあり、個々の会話も周りへの気遣いが大切だと反省し、日々の声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志をうまく伝える事が出来ない方も多 が、日常会話の中で可能な限り希望を聞き入れたり、自己決定できるよう、声掛けなどに気を配り、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が本当にしたい生活とは言い難いが、少しでも個々のペースに合わせ、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ていない面もあるが、併設されている理美容に定期的に行かれたり、ご家族にお願いし、新しい衣類を購入して頂いたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを把握し、柔らかいもの、刻みにて提供している。食事は、入居者、職員と一緒に喋りしながら召し上がって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを作成する時には、野菜を多く取り入れ、バランスが取れるような食事提供に努め、食後にコーヒーを勧めたりし、水分チェック表を作成し、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	仕上げ磨きを行ったり、夜間には入れ歯洗浄も行っている。必要に応じ、歯科往診を受け、衛生士より口腔ケア、口腔内体操を受け、必要であれば指導も行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら、個々に合わせた排泄支援を行い、可能な限りトイレでの排泄を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取れるよう食事に工夫し、起床時には排便を促すようヨーグルト牛乳を飲んで頂き、午後のおやつ時にもヨーグルトを食べてもらいたりとスムーズな排便ができるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施し、本人の意向、体調などに配慮し、希望に添えるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の習慣、体調に合わせて休息を取って頂き、夜間眠れない時には、自由にテレビを観たり、ラジオを聴いたりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を用いて、1日に内服されるようセットし、個々がどのような薬を内服されているかを把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなど、出来る事をお願いしている。また、行事の予定を立て、外食、ドライブ、散歩などを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ敷地内を散歩して頂き、中にはご家族と外出される方、定期受診で外出された際、外食を楽しんだり、ご家族の協力を得ながら支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理ができる方には所持して頂くようにし、ご家族よりお小遣いとして預かり、必要なものはその中で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙の希望はないが、電話の希望がある時には職員が番号を回し、電話口に出たら変わるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の日差しは可能な限り取り入れるようにし、適度な温度、湿度を保つように加湿器、除湿器を使用している。また、共有空間にカレンダーがあり、季節感を出すように飾り付けをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではそれぞれくつろげる場所があり、ソファやテーブルの位置なども配慮し、設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持参して頂くよう説明し、家具の配置などはご家族、本人と相談しながら決めて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事、わかる事を会議で話し合い、情報交換を行っている。車椅子など自走できる十分なスペースを確保し、安全に生活できるよう、環境整備に努めている。		